

◆ 今週のコメント

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.41で、過去5年平均値(0.87)を上回っており、第2週及び第3週を除き、多い状態が続いています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は0.63で、過去5年平均値(0.31)を上回っており、第19週及び第20週を除き、多い状態が続いています。
- ・ アメーバ赤痢の報告が1例あり、本年の累積報告数は9例となっています。9例の内訳は、男性7例、女性2例で、推定感染経路は性行為感染が7例、不明が2例です。
- ・ 麻しんの報告が2例あり、本年の累積報告数は18例となっています。18例の内訳は、男性12例、女性6例で、年齢階級別では、0～9歳が5例、10～19歳が9例、20～29歳が2例、30歳以上が2例です。

◆ 今週のトピックス:〈腸管出血性大腸菌感染症〉

- ・ 報告が4例あり、本年の累積報告数は11例になっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 5例(喀痰塗抹陽性 4例, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 141例(喀痰塗抹陽性 47例, 無症状病原体保有者 11例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O145 VT2, O157 VT1VT2) 4例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- ・ 五類:麻しん 2例【1月以降の累積報告数 18例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.61	230
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.41	58
	③ 水痘	0.93	38
	④ 手足口病	0.63	26
	⑤ 突発性発しん	0.32	13
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈腸管出血性大腸菌感染症〉

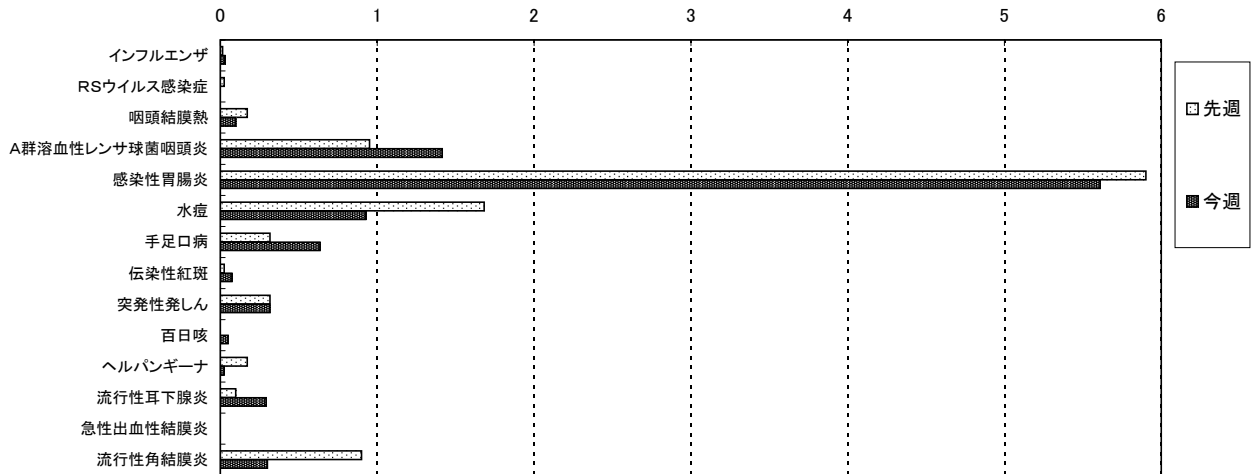
(注)京都市のデータは、平成20年5月30日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

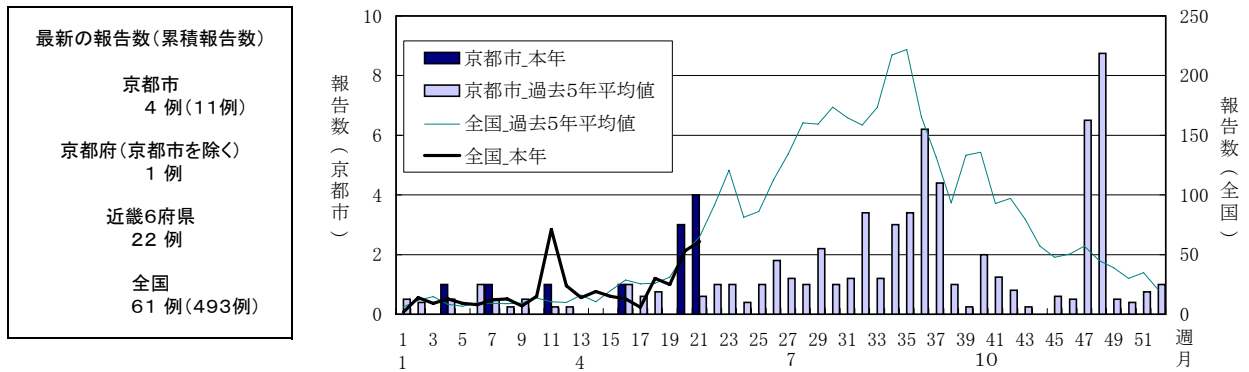
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第21週)と先週(第20週)の定点当たり報告数の比較

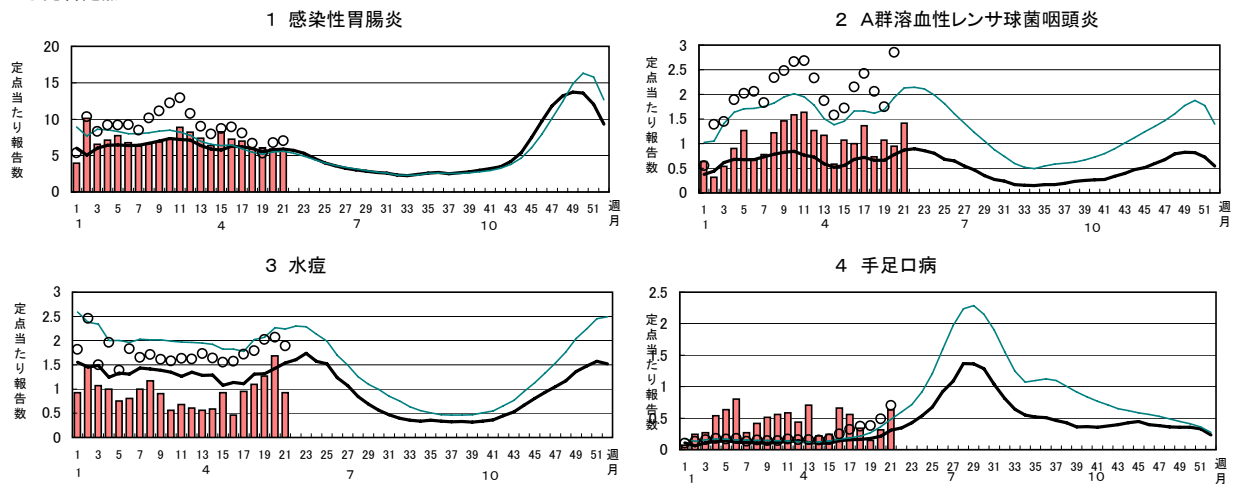


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

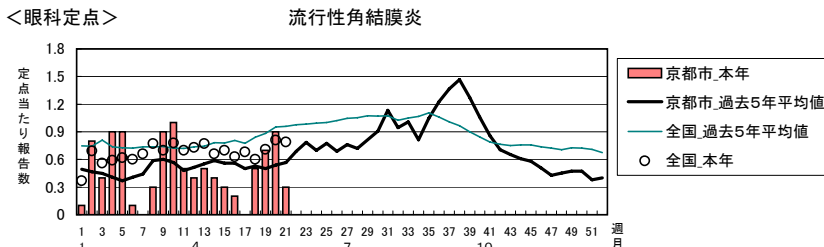


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第21週)のトピックス:〈腸管出血性大腸菌感染症〉

今週の報告は4例で、本年の累積報告数は11例となっています。週別にみると、第20週、第21週と続けて報告が多くなっており、京都市及び全国の過去5年平均値を大きく上回っています。

報告数の多い第20週と第21週の詳細を見ると、血清型別では、共にO157(VT1VT2)(5例)が多くなっており、第21週では、O145(VT2)が1例報告されています。年齢階級別では、0～9歳(4例)が多くなっています。

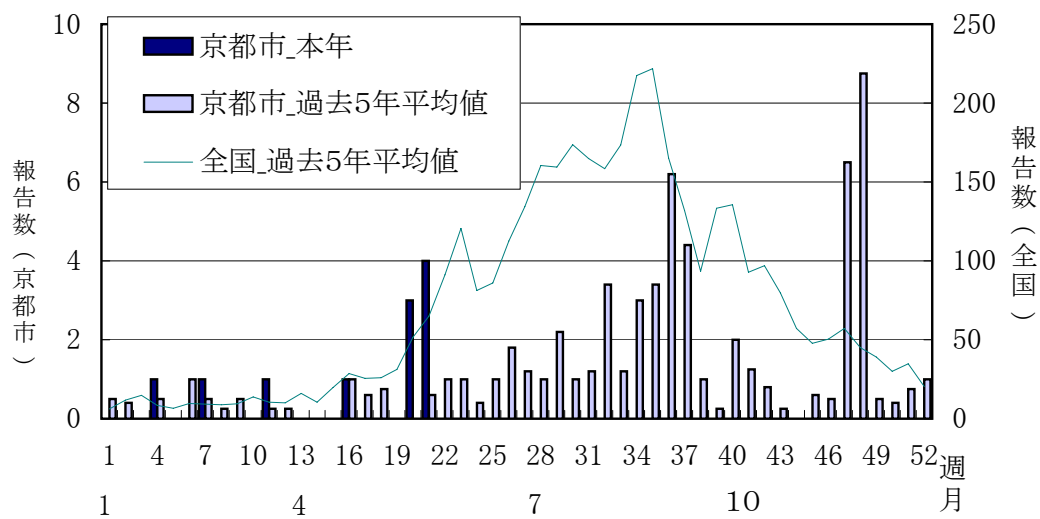
腸管出血性大腸菌感染症は、毎年この時期から増加が見られ、全国的にも託児施設等で集団発生が見られます。平成20年5月30日現在、京都市においても、託児施設で集団感染が発生しています。患者数は14名、血清型はO26です。

下痢症状等の患者を診察された場合には、本疾患も考慮の上、生肉(生レバー、ユッケ等)の喫食の確認、菌検査等を行っていただきますようお願いいたします。

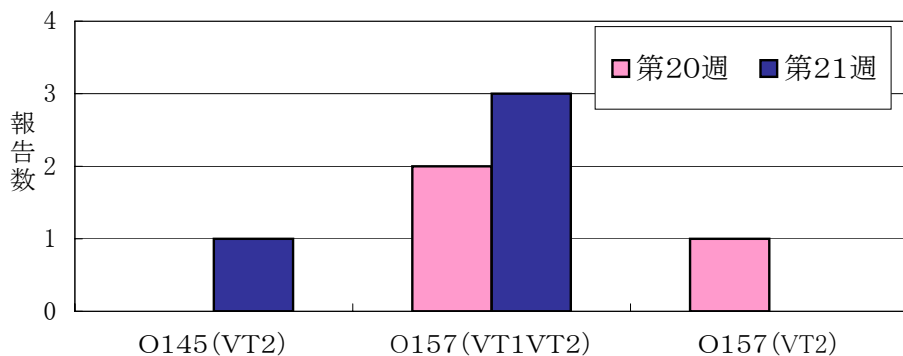
本疾患は御存知のとおり、感染症法の三類感染症に定められています。診断された場合は、直ちに最寄りの保健所に届出を行ってください。発生届出基準及び発生届出様式は、京都市ホームページよりダウンロードできますので、よろしくお願ひします。

(<http://www.city.kyoto.jp.lg.jp/hokenfukushi/page/0000003673.html>)

本年の報告数の推移



血清型別報告数(第20週, 21週)



年齢階級別報告数(第20週, 21週)

